

# OKB大垣共立銀行高木家文書資料館と 名古屋大学附属図書館支援事業の取り組み

小嶋悦子

## 1. はじめに

名古屋大学附属図書館(以下、当館)内のビブリオサロンの呼称をOKB大垣共立銀行高木家文書資料館<sup>1)</sup>(以下、資料館)と改めたのは、2018年7月のことである。以来、当館が所蔵する重要文化財「高木家文書」の複製を展示、紹介する場として学内外に公開している。本稿では、この名称変更に至った経緯と、その後の資料館の運用状況および今後の展望について紹介する。

## 2. 株式会社大垣共立銀行とのご縁

この発端は、2017年に、ある業者からデジタルサイネージを使った広告サービスの紹介があったことにさかのぼる。この頃、名古屋大学(以下、本学)では、大学基金<sup>2)</sup>の下に特定基金を設置することが認められ、自主財源獲得の手段を模索していた当館でも、2017年4月に特定基金附属図書館支援事業<sup>3)</sup>を設置するはこびとなった。また、本事業を遂行するために、図書館支援事業運営委員会の下に特定基金等ワーキンググループ(以下、基金WG)が設置され、図書館の若手職員を中心としたメンバーが企画案検討にあたることになった。

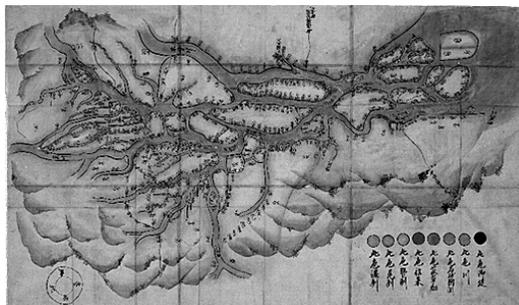
寄附募集と並んで、自主財源獲得手段の一方策としてネーミングライツに関する事例調査・検討も基金WGによって行われたが、学内の方針との折り合いから、即座に実施には至らなかった。その代わりに、中央図書館エントランスホールに、本学学生を対象とした広告等を掲載するデジタルサイネージを設置して広告収入を得ることが検討され、提案型の総合評価方式による公募の結果、大垣正和サービス株式会社と株式会社 Dream 少年

が提案するデジタルサイネージが置かれることになった(デジタルサイネージ導入の詳細と附属図書館支援事業の活動については、先行する文献<sup>4)</sup>に詳しい)。

デジタルサイネージの設置に関する打ち合わせを進める中で、附属図書館から大垣正和サービス株式会社に向けて、図書館を利用する学生のための寄附依頼を行ったところ、「良い話なので是非検討させてほしい」との回答が得られた。

また、この頃から、特定基金附属図書館支援事業では、当館所蔵の貴重資料である「高木家文書」を中心に地域文書の保存活用事業を行っており、文書の修復やデジタル化にかかるクラウドファンディングを実施して地域資料の広報に努めてもいた。「高木家文書」は、現在の岐阜県大垣市上石津町に居を構えていた旗本西高木家の旧蔵文書群である。江戸時代初期から明治期の古文書・古記録・絵図等がまとまって現存しており、なかでも木曾三川流域における治水関係資料が豊富に伝来していることで知られる。

この大垣市を中心とした地域文書の保存活用事業が、前述の大垣正和サービス株式会社の知るところとなり、関心をお寄せいただいた。さらには、



▲「高木家文書」木曾三川下流域絵図

高木家第13代目当主の高木貞正氏が、大垣正和サービス株式会社のパートナー会社である株式会社大垣共立銀行（1896（明治29）年設立。以下、大垣共立銀行）の設立に関わり、監査役を務めた人物であったことから、大垣共立銀行と当館にはご縁があることも知られることになった。これらのことがきっかけとなり、「高木家文書」保存活用事業および当館の運営に対して、大垣共立銀行から本格的なご支援のお申し出をいただくこととなった。

### 3. ご支援と返礼

ご支援の内容は、2018年から多年にわたり、特定基金附属図書館支援事業へ安定したご寄附をいただくというものである。

これに対する謝礼として、当館では2018年7月に2階ビブリオサロンの呼称を「OKB大垣共立銀行高木家文書資料館」と改称し、「高木家文書」の展示・情報発信の場として整備することとした。また、大垣共立銀行の会長、頭取はじめ執行役の方々のご参加をいただいて、当館にて下表のような催しを行った。2019年に、当館所蔵「高木家文書」の一部が、「交代寄合西高木家関係資料」の名称で、本学として初となる国の重要文化財に指定された際にも、大垣共立銀行の方々を招いてその記念イベントを開催した。

年月日	催し
2018.7.27	寄附目録受領式
2019.3.18	「高木家文書」重要文化財指定答申記念記者発表および資料館内覧会
2019.8.26	大垣共立銀行役員の資料館見学会

このほか、毎年図書館長からの感謝状を大垣共立銀行へお届けし、豊田講堂で開催される名古屋大学基金の高額寄附者対象の催しにもお招きしていたが、2020年、2021年はコロナ禍により対面でのやり取りはできない状況となっている。

### 4. 資料館の概要

資料館は、エントランスフロアに位置しているが、図書館の入館ゲート手前に入口があり、入館証を持たない一般の方にも自由に見学していただける作りになっている。

「高木家文書」の展示にあたっては、当館の研究部門である研究開発室の教員が企画を行い、クラウドファンディングや大垣共立銀行からの寄附金の一部を使わせていただき、史料原本の複製を中心とした展示を行っている。



期間	展示内容
2018.7.10～8.14	高木家文書特別展
2018.10.19～11.17	2018年秋季特別展「古文書にみる地震災害」
2019.3.19～	常設展「旗本高木家と木曾三川流域治水」

▲OKB大垣共立銀行高木家文書資料館の展示

上記のように、現在は常設展として、「高木家文書」の複製26点を展示し、解説パネルとディスプレイモニター1台を設置している。

また、資料館のVR（ヴァーチャル・リアリティ）展示<sup>5)</sup>を行っており、当館ウェブサイトのバナーからご覧いただける。VR展示は、来館しなくても、スマホ、PC等から、簡単な操作で資料館内の様子を見ることが出来る非来館型のサービスである。展示資料に近づくとデジタル資料へのリンクが現れ、そこから当館「高木家文書デジタルライ

ブラリー」で公開しているデジタル画像を閲覧することもできる。2020年3月以降、学外者のキャンパス内への入構が制限され、資料館に足を運んでいただく機会が減少していたが、この間VR展示をご観いただくことができたのは幸いであった。現在のVRシステムを公開した2020年6月25日から2021年12月までのアクセス数は2,599件となっている。

## 5. 今後の展望

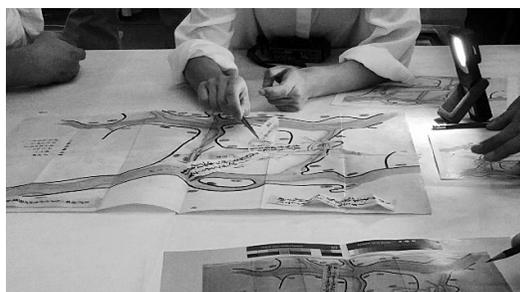
コロナ禍により、2020年3月以降はこれまで実施してきた見学会のような来館型のイベントができなくなり、基金WGでも企画の見直しを迫られた。まず、感染対策の観点から寄附特典を見直し、高額寄附者対象に年1回行っていた資料館と貴重書の見学ツアーを、予約制の個別館内ガイドに変更した。また、コロナ禍でのクラウドファンディング挑戦には迷いもあったが、「高木家文書」の保存公開事業に関する第2回クラウドファンディング<sup>6)</sup>を実施したところ、結果として多くの方の賛同を得て目標額を達成することができた。この挑戦は報道でも取り上げていただき、「高木家文書」の広報機会として有効なものであった。これを受けて当館では、2021年度から3年計画で「高木家文書」修復事業を実施することとした。初年度の修復対象は、資料館に複製を展示している大絵図等10点で、クラウドファンディングサイト上でその修復過程などを引き続き発信している。

一方で、事務の体制にも変化があった。東海国立大学機構発足後、岐阜・名古屋両大学の連携が進み、2021年6月に同機構の図書館プロジェクトチームが始動した。これにより、基金WGの活動は社会貢献・社会連携プロジェクトチームに引き継がれて現在に至っている。現在、本プロジェクトチームでは、当館研究開発室等と連携し、資料館の展示替えを準備中である。

本学として初となる重要文化財指定を受けた「高木家文書」であるが、地域に深い関わりを持つ史料でありながら、いまだ地域の人によく知られ

ているとは言い難い状況である。研究者だけでなく、一般の方にも身近で興味深い内容を含んでいるため、今後はより広く情報発信を強化し、資料館はその発信拠点として発展させたい。

このように、当館の事例は、ネーミングライツの公募という形ではなく、自主財源獲得のための活動と所蔵資料の保存公開事業とが同時進行しながら成立していった。このような形での支援の実現は、大垣共立銀行と当館との間を取り持ってくれた大垣正和サービス株式会社の功績によるところが大きい。この場を借りて改めてお礼申し上げたい。



▲修復中の「高木家文書」

## 注

- 1) OKB 大垣共立銀行高木家文書資料館  
[https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/kikin/takagi\\_tokusetsu/takagike\\_monjo.html#siriyokan](https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/kikin/takagi_tokusetsu/takagike_monjo.html#siriyokan)
- 2) 名古屋大学基金  
<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>
- 3) 名古屋大学特定基金附属図書館支援事業  
<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/kikin/index.html>
- 4) 竹谷喜美江 名古屋大学基金：特定基金「附属図書館支援事業」の設立と展開 大学図書館研究 110 (2018-11-30)
- 5) OKB 大垣共立銀行高木家文書資料館 VR 展示  
<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/event/index.html#vr>
- 6) 【第2弾】名古屋大学の使命！重要文化財の絵図を守り継ぐ  
<https://readyfor.jp/projects/TakagiDocuments2>

## 参考文献

1. 鷲津彩乃 名古屋大学基金特定基金「名古屋大学附属図書館支援事業」による取り組みの展開 現代の図書館, vol.57, no.4 (2019-12)
2. 株式会社大垣共立銀行会社概要  
<https://www.okb.co.jp/about/outline.html>  
(こじま えつこ：名古屋大学附属図書館)

[NDC10：013

BSh：1. 図書館経営 2. 名古屋大学附属図書館]